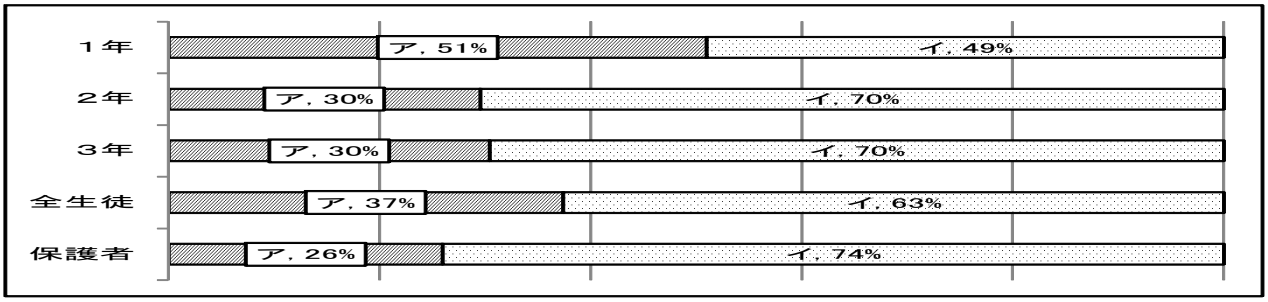
授業に関するアンケート

平成２４年12月実施(１年４９人，２年４４人，３年46人，計139人，保護者77人回答)

１　どの座席が良いと思いますか？

ア　全員が前（黒板）を向く座席　　イ　「コの字」型の座席



ア　「全員が前（黒板）を向く座席」が良い理由

＜生　徒＞

①コの字だと後の人は，黒板が見えにくいから。端っこは，黒板が反射して見えにくい。
②サイドの人が横向きになって，黒板を見にくい。
③コの字だと集中できない。おしゃべりが多くなる。一人の方が集中できるから。
④小学校の時そうだったから。

＜保護者＞

①コの字型は集中しにくいと思う。
②おしゃべりが少なくなる。
③黒板に書いている字が見えないとかがあるようです。話し合う場合などはコの字でもいいと思います。
④全国的だから。

どちらにも「黒板が見やすいから」という理由を挙げている。まだ，板書中心の授業形態になっていないだろうか？

イ　「コの字型の座席」が良い理由

＜生　徒＞

①グループにしやすいから。グループ学習がしやすい。
②みんなを見渡せて，黒板に向きやすいから。全員が前を向くと後側が見えずらくなるから。
③先生の話をしっかり聴けるから。先生がよく席をまわってくれて，話が聴きやすい。
④「コの字」型に慣れているから。
⑤黒板が見やすく，学習しやすいから。前の人の頭で黒板が見えないということもなくなる。
⑥話をしている人に向きやすい。
⑦周りの人に相談しやすいから。
⑧教室が広々とした感じになるから。
⑨慣れてきたら一番集中できる。見えやすい，聞こえやすいから集中して授業に取り組める。静かに授業ができる。
⑩発表しやすい。
⑪楽しい。

＜保護者＞

①先生だけじゃなく，全員を見渡せて良いと思う。
②前を向いていると，後ろの席の生徒に目が行き届きにくい。コの字だとお互い顔を合わせるので，学習に参加している意識が高まると思う。
③グループ活動がしやすいから。
④授業に活気があるように見える。楽しそう。
⑤お互いに顔や様子が見れてコミュニケーションが取りやすい。発表も聴きやすい。
⑥子どもの顔が全体で見れるし，おしゃべりも少ないと思う。
⑦ただ聞くだけの授業にならないようにするため。
⑧成果が出ている。

考　察

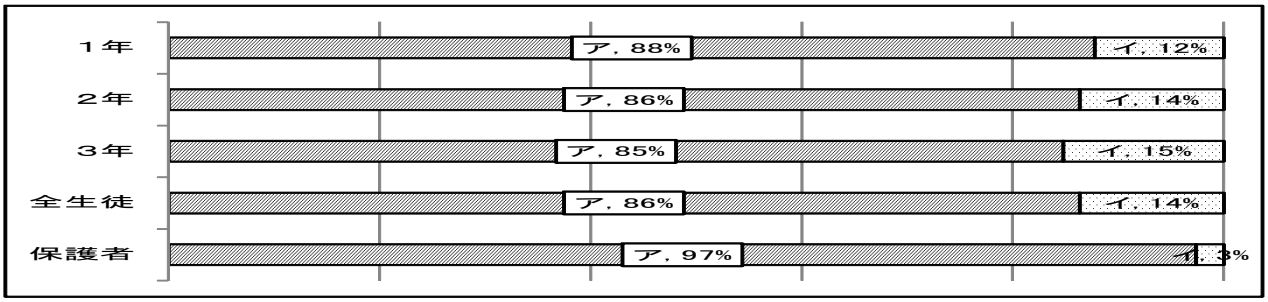
＜生　徒＞

①「コの字」型の座席を選んだのは，３学年の中で，１年生が最も低い（49%）。１年足らずの取組であり，「コの字」型座席の意義と良さをまだ実感していないと思われる。
②昨年の12月調査時よりも，「コの字」型の座席を支持する生徒の割合が，高くなっている（41%⇒63%）。
③アを選んだ理由として，「コの字だと黒板が見えにくく，おしゃべりが多くなり，授業に集中できない」とあるが，イを選んだ理由からは，逆に「コの字だとみんなを見渡せて，黒板が見やすく，静かに授業に集中できる」と感じているのは，興味深い。

＜保護者＞
①「コの字」型の座席を支持する割合は，保護者（74%）の方が全生徒（63%）よりも高い。
②それぞれの理由に，生徒と同じような理由が挙げられている。家庭でも話題に上がっている様子がうかがえる。
③アを選んだ理由として，生徒の「小学校の時そうだったから」と同じように，「全国的だから」という理由が挙げられている。世界的には，発展途上国を除いて，日本とアジアの数カ国のみが，「全員が前（黒板）を向く座席」であることを伝える必要がある。合わせて，「学びの共同体」の理念を保護者に説明し，理解と協力を得ることも必要である。

佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から
コの字型の座席配置は対話的な活動に都合がよい。この配置は，子どもが互いに聴き合うためである。子どもの発言は，小学校低学年から，教師に向けられ，教室のあなたたちに語られていない。コの字型は「発表している人の顔が見えるから」というよさもある。お互いの発言をきちんと受け止め合うことは対話的実践において重要な要素である。

２　小グループ活動を行った方がいいですか？
ア　小グループ活動を行った方が良い　　イ　小グループ活動は行わない方が良い



ア　小グループ活動を行った方が良い理由
＜生　徒＞
①みんなで協力して勉強できるから。
②一人の知恵より３・４人の方が，知恵をスムーズに出しやすいし，いろんな情報を得られるから。
③人数が多すぎてもだめだから，人数は少ない方がいい。少ない人数の方が，時間があまりかからないし，意見もまとめやすいから。
④分からないことも聴き合えるから。教え合いながらできるから。話し合うことで考えが深まる。学び合いができる。
⑤楽しい。

小グループ活動（共有の学び＋ジャンプ課題）と全体でのすり合わせによる，「対話」と「協同」のある學びの授業スタンダードを充実させたい。

＜保護者＞
①グループで話をして，まとめて，それをみんなでと分けてみては？
②お互い助け合い情報交換もでき，対人交流から学ぶことが多い。
③個人の意見が出やすい。他の人の話も聴ける。話し合いをする機会が増える。
④わからないところを教え合ったりしやすい。気軽に分からない所を相談できる。
⑤みんなをまとめていくためには…みんなでまとまるには…どちらもお互い努力するので良いと思う。お互いの意見を出し合い，動いたりするので良い。教え合えて高め合える。
⑥協力性が出てくる。チームワークなど話し合う力もつきそう。
⑦少人数の中で意見を言い合う練習をして，大人数の中でも意見を言えるようにしていけばよいと思う。
⑧小グループの学習はとても良いと思うが，理解できていないところなどは，個別に教師の指導が必要だと思う。

教師の仕事「聴く・つなぐ・もどす」＋「ケアする」を徹底したい。

イ　小グループ活動は行わない方が良い
＜生　徒＞
①人任せにする人がいるから。
②グループ活動をしても友達とおしゃべりするだけ。
③机を動かすのがめんどくさい。

『学びの作法』を身に付けさせたい。

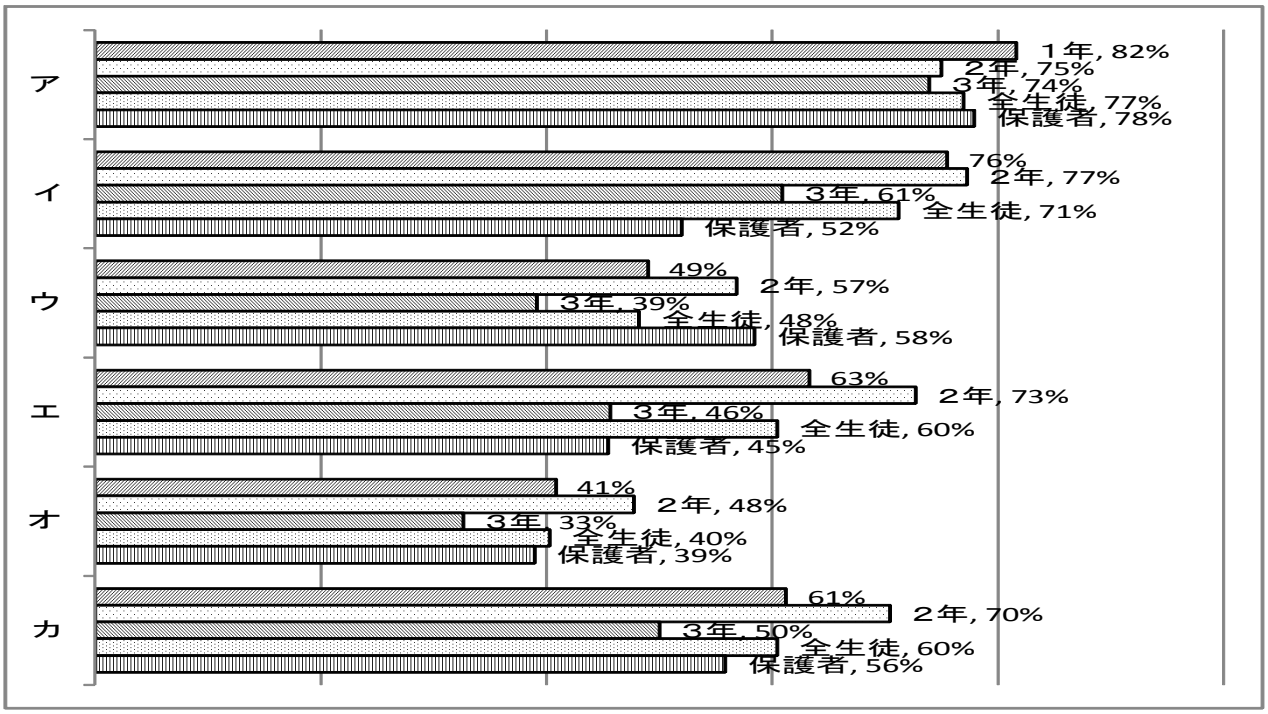
＜保護者＞
①お互い教え合いをしている様子がないので，止めた方がいい。

考　察
＜生　徒＞
①各学年ともに，小グループ活動を支持する割合が高い。
②小グループ活動を支持する理由から，積極的に学び合おうとする姿が思い浮かぶ。支持しない理

由には，机の移動や他人とのかかわりを面倒に感じている様子がうかがえる。
③昨年12月調査時よりも，小グループ活動を支持する割合が，高くなっている（60%⇒86%）。今後とも小グループにおける「対話」と「協同」のある学び合いを充実させたい。
＜保護者＞
①ほとんどの保護者（97%）が，小グループ活動を支持しており，その割合は全生徒（86%）よりも高い。
②アを選んだ理由から，多くの保護者が，小グループ活動の意義や良さを概ね，理解していると思われる。

佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から
グループ活動がうまくいくには，子ども同士の「あいだ」に間違いを認め，依存した時に丁寧にケアしてくれる人間関係が必要である。
一人では解けない子どもが自ら他者に尋ねることから始まる。他者に依存できる子どもは自立できる。
＜学びの作法＞
○ルール１　分からなくなったら仲間に「教えて」と恥ずかしがらずに訊く。
○ルール２　訊かれた子どもは，自分のアイディアを惜しみなく伝え，相手が納得するまで説明を繰り返す。
○ルール３　できる子どもから「教えてやる」と言ってはいけない。

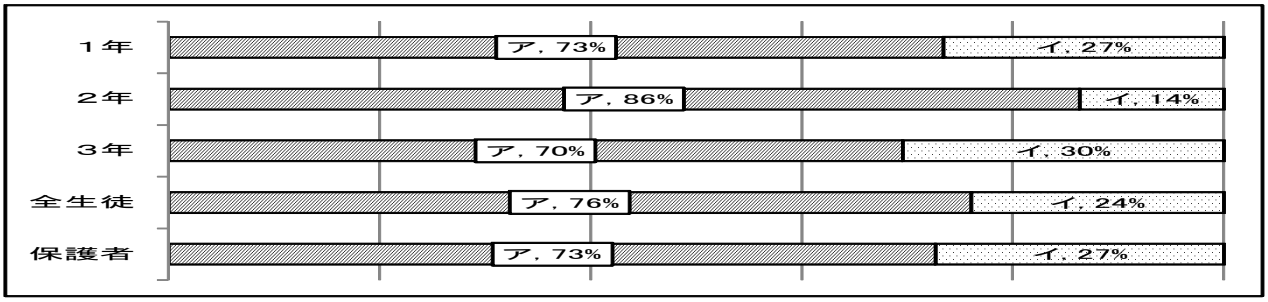
３　３・４人のグループ活動で大切にしたいことは何ですか？
ア　分からないときは，他の人と一緒に考えようとすること。
イ　分からないときは，他の人に訊こうとすること。
ウ　自分の考えと他の人の考えの違いを理解しようとすること。
エ　他の人の考えを聴こうとすること。
オ　自分から意見や考えを言おうとすること。
カ　他の人に訊かれたら，教えたり，説明しようとすること。



考　察
＜生　徒＞
①ほとんどの項目で，昨年度12月調査よりも高い割合を示しており（ア：66%⇒77%，イ：50%⇒71%，ウ：30%⇒48%，エ：44%⇒60%，オ：23%⇒40%，カ：38%⇒60%），好ましい傾向である。
②その中でも，ア，イ，エ，カが比較的高い割合を示し，ウ，オが比較的低い割合を示している。
＜保護者＞
①全生徒の割合よりも高い割合を示しているのは，ア，ウである。
②生徒同様，オの割合が最も低い。「自分から意見や考えを言おうとする」態度をはぐくみたい。

佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から
＜話し合いの基礎＞
ア　人の話を互いに聴き合う(聴き合う関係をつくる)。
イ　他者の意見や考えに敬意を払う。
ウ　自分の考えの根拠や理由をもつ。
エ　根拠や理由をベースに自分の言葉で表現する。
オ　他者の意見に対して反応する。たとえば，疑問があれば質問する。わからなければ「わからない」と。「そうか」「なるほど」「エ～」などの響き合う言葉やうなずきを。

4　分からないことがあった時，「どうするの？」とか，「教えて？」と他の人に訊(き)いたり，他の人の意見に「どうして？」とか，「もっと詳しく話してくれる？」などと，互いに聴き合っていますか？
ア　どちらかと言うと，互いに聴き合っている　イ　どちらかと言うと，互いに聴き合っていない



ア　どちらかと言うと，互いに聴き合っている理由
＜生　徒＞
①自分は分からないところがたくさんあるから，「教えて？」って互いに聴き合っている。
②聴き合ったら，分からないところも分かるようになるから。
③自分も分かりたいし，友情が深まるから。
④分からないままは，いやだから。
⑤分からないことがあったら，同級生同士の方が聴きやすい。
⑥自分の考えと相手の考えが違うことが多いから，しっかり比べるため。
＜保護者＞
①はっきり物事を言える子なので。
②聴くと答えてくれるし，親切に接してくれる。
③疑問に思うこと，分からないことは，家庭においても姉や親によく聞いたりしている。

イ　どちらかと言うと，互いに聴き合っていない理由

『聴く作法』（①話を分かろうとして②体を向けて③反応しながら聴く）の徹底

＜生　徒＞
①言いにくいから。ちょっと聞きづらい。訊くのが恥ずかしい。あまり意見が出ないからムリ。
②自分は訊かれたりするが，自分で相手に訊いたりしていない。
③訊かないで分からないところの答だけを写している感じがする。
＜保護者＞
①他の子が何も意見を言わない，何も考えないで，最後は結局自分の考えを発表する事が多く，又他の子もそれで普通に過ごしているからおもしろく思っていない事がよくあった！
②ききやすい人ならきけると思う。はずかしがり屋。
③もっと積極的に頑張って欲しい。落ち着きがなく，精神的に幼いので，まだまだ聴き合う姿勢が足りないと思う。
④すべての教科に学習意欲がない。

考　察
＜生　徒＞
①普段の授業の様子から，まだ，「聴き合う」関係づくりができておらず，「分からん」「教えて」「ここどうするの」と言える生徒が少ないと感じているが，多くの生徒（76%）が，「どちらかと言うと，互いに聴き合っている」と答えている。その中で，3年生の割合（70%）が最も低い。
②まだ，「他の人に聞きづらい，訊くのが恥ずかしい」と感じている生徒がいる。「聴き合う学級づくり」を一層強化し，一人ひとりの意見が尊重され，間違いや多様な考え方が受け入れられ，生徒同士がつながり合う学級づくりを目指したい。
＜保護者＞
①保護者の方が「子どもは互いに聴き合っていると思う」割合が低い（73%）。
②イを選んだ保護者の理由①からも，「聴き合う学級づくり」の必要性を強く感じる。